

第2章 生活習慣病の重症化予防

三大生活習慣病（がん、心疾患、脳血管疾患）による死亡者は死亡者全体の半数以上を占めており、特にがん、脳血管疾患の死亡率については、国・県に比較し高い状況にあります。また、糖尿病や脂質異常、メタボリックシンドロームの有所見者の割合が県に比較し高く、健康診査を定期的に受け、早い段階から保健指導を受け生活習慣を改善することや、必要な治療を受けることにより、重症化を防ぐことが重要です。

1 がん

一生涯のうち、約2人に1人ががんにかかり、男性で約4人に1人、女性で約6人に1人ががんで亡くなるという統計があり、がんは誰でもなりうる身近な病気といえます。本市においては、40歳代以上の死因の第1位はがんです。特に60歳代で亡くなる人のうち、約2人に1人ががんで亡くなっています。がんにならない生活習慣を心がけることと、「がん検診」を受けることが大切です。早期のがんは自覚症状がないため、定期的にがん検診を受けることが大切です。がんは、早期に発見して治療すれば、9割以上が治るといわれています。

【健康たかおか◎10か条】

第9条 あなたとあなたの大切な人のためにがん検診を！

取組の方向

- ・がんの早期発見・早期治療により、早世を減少させるため、がん検診受診率の向上及び要精密検査受診率の向上に取り組めます。
- ・がん検診の受診率向上のため、行動変容を促すナッジ理論※を活用した受診勧奨を進めていきます。
- ・がんにかからないための生活習慣について正しい知識を普及し、がんを予防するため、がん検診の必要性和受診方法の普及啓発に努めます。

目標

項目	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和10年度)
がん検診受診率の向上	肺 34.6%	60%
	胃 29.9%	60%
	大腸 33.4%	60%
	子宮 30.2%	60%
	乳 33.1%	60%

がん検診精密検査の受診率の向上	肺	90.6%	100%
	胃	92.9%	100%
	大腸	79.7%	100%
	子宮	96.8%	100%
	乳	92.1%	100%

具体的な取組

〔個人や家族の取組（市民自らの健康づくり）〕

- ・喫煙、食生活、運動等の生活習慣ががんに及ぼす影響を知り、がん予防のための望ましい生活習慣を実践します。
- ・定期的にがん検診を受診するとともに、精密検査が必要と言われたら必ず受けます。

〔関係団体・関係機関の取組（市民を支える地域の健康づくり）〕

関係団体・機関の取組	主な活動（関係団体・機関）
がんにかからないための生活習慣について正しい知識を普及し、がんを予防するため、がん検診の必要性和受診方法を説明し、受診を勧めます。	・手作り受診啓発グッズの配付や保育所訪問等による乳がん「ブレスト・アウェアネス」の説明や、子宮がん検診受診啓発パンフレット配布によるがん検診の受診勧奨（ヘルスボランティア協議会） ・7か月児訪問連絡活動や赤ちゃんにこにこ教室等で母親へ「ブレスト・アウェアネス」の説明や、乳・子宮がん検診の受診勧奨（母子保健推進員協議会） ・健康管理やがん検診の大切さの普及啓発、受診勧奨（地域健康づくり推進懇話会、環境保健衛生協会、食生活改善推進協議会、高岡市薬剤師会、全国健康保険協会富山支部） ・健康に関する講演会（高岡市医師会） ・青少年健康づくり支援事業（高岡厚生センター） ・被扶養者の特定健診とがん検診の同時実施（全国健康保険協会富山支部）、包括連携協定締結企業と連携した健診案内

※ ナッジ理論：ナッジ(nudge)は、「そっと後押しする」という意味の英語で、ナッジ理論とは「人々が強制的にではなく、より良い選択を自発的にとれるようにする方法」を生み出すための理論です。高岡市でも、がん検診を受診されていない方に自発的な受診を促すような通知を行い、受診を「そっと後押し」します。

〔高岡市の取組（市民を支える環境）〕

高岡市の取組	主な事業（担当課）
地域住民へ健康教育を実施し、がんにかからないための生活習慣や、がん検診について情報提供します。	健康教育（健康増進課）
子どもに対して、健康と命の大切さについての学習を通して、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育します。あわせて、保護者へ高岡市のがんの状況や検診受診方法等について周知し、検診の受診を促します。	・ 小学校におけるがん教育推進(健康増進課) ・ 小・中学校におけるがん教育推進(学校教育課)
30～40 歳代の罹患率が高い子宮頸がんの早期発見のために、がん検診の必要性について周知します。また、がん検診を受けやすい環境を整えます。	・ 乳幼児健診における保護者への子宮がん検診受診啓発リーフレットの配布（健康増進課） ・ 集団がん検診会場における託児の実施、土日集団がん検診の実施（健康増進課）
職域等におけるがん検診の受診率向上を図るため、事業者等に対して「健康経営」の重要性を啓発し、がん検診を受診しやすい環境づくりを進めます。	・ 健康企業宣言(全国健康保険協会富山支部) ・ 健康経営宣言（高岡商工会議所）
がん検診未受診者へナッジ理論を活用した案内を送付し、受診率向上を図ります。	がん検診の未受診者への受診勧奨（健康増進課）
HPV 感染による子宮頸がんを予防するため、小学 6 年生から高校 1 年生に相当までの女子を対象に積極的に勧奨を行い、HPV ワクチンの定期接種を行います。	子宮頸がん予防（HPV）ワクチンの定期接種(健康増進課)
肝炎を早期発見し、肝硬変や肝がんの発症を予防するため、肝炎ウイルス検診を実施するとともに、肝炎やウイルスに関する情報提供を行います。	肝炎ウイルス検診(健康増進課)
精密検査の未受診者に対して、電話等での受診勧奨を行います。	・ がん検診精密検査受診勧奨案内(健康増進課) ・ 人間ドック（国民健康保険加入者への助成、後期高齢者医療制度加入者への助成）（保険年金課）
がん治療による外見の変化によって受ける心理的な苦痛を軽減し、社会で自分らしく暮らすことができるよう、ウィッグや乳房補正具の購入にかかる費用の一部を助成します。	がん患者アピアランスケア助成事業（健康増進課）

コラム「乳房を意識する生活習慣「ブレスト・アウェアネス」を身につけましょう」

ブレスト・アウェアネスは、乳房を意識する生活習慣です。
具体的には、日ごろの生活の中で次の４つを行いましょう。

1. 自分の乳房の状態を知る。
2. 乳房の変化に気をつける。
3. 変化に気がいたらすぐ医師に相談する。
4. 40歳になったら、2年に1回乳がん検診を受ける。

参考：「乳房を意識する生活習慣 ブレスト・アウェアネス」（日本乳がん学会）

コラム「アピアランス(外見)ケアとは？」

がん治療に伴う脱毛(頭髮、まつ毛、まゆ毛等)、皮膚や爪の変色、爪の変形、手術の傷あとななどの外見の変化に対して、悩みに対処し、支援することを「アピアランスケア」と呼びます。

広く一般的には「医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア」と表現しています。

近年がん医療が進歩したことにより、治療を続けながら社会生活を送る方が増えており、そうした方にとって、治療中であっても自分らしく生活を送るために、アピアランスケアは重要なものとなっています。

参考：「がん情報サービス」用語集(国立研究開発法人国立がん研究センター)

2 循環器疾患

がんに次いで市民の死因の大きな割合を占めているのが、循環器疾患です。代表的な循環器疾患として、脳の血管に由来する「脳血管疾患」と、心臓の血管に由来する「虚血性心疾患」があります。循環器疾患の発症には食生活や運動、喫煙などの生活習慣が深く関わっているほか、冬季の寒い室内や温度差などの住まいの環境も関連があるといわれています。循環器疾患の発症予防や重症化予防のためには、生活習慣の改善や年1回の健康診査、また住まいの環境改善などが重要です。

【健康たかおか😊10か条】

第10条 40歳になったら毎年受けよう！特定健康診査

知ってるよ！わたしの血糖値・HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）

取組の方向

- ・生活習慣病の発症予防や重症化予防のための生活習慣の改善、ヒートショック※の予防について普及・啓発を行います。
- ・職域や関係団体と連携し健康診査の必要性和受診方法を説明し、受診を勧めます。
- ・健診結果を活用し自分自身の生活を見直すことや、専門職による保健指導を受けることができるよう支援していきます。

目標

項目	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和10年度)
特定健康診査の受診率の向上（国民健康保険と全国健康保険協会富山支部の特定健診結果）	59.4% (令和3年度)	63.3%
メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合の減少（40～74歳）（国民健康保険と全国健康保険協会富山支部の特定健診結果）	男性 47.0% 女性 17.3% (令和3年度)	男性 42.0% 女性 15.2%
要介護2以上の人の割合の減少（80～84歳）	12.8%	減少

※ヒートショック：急な温度変化が身体に与えるショックのことをいい、心臓に負担がかかることで、心筋梗塞や脳梗塞につながる恐れがあります。特に普段から血圧が高めの高齢者はヒートショックを起こしやすいといわれており、脱衣室・浴室を含めた住宅の室温を高く均一に保つための生活の工夫と合わせ、住宅の断熱性能を高める等の対策が必要です。

具体的な取組

〔個人や家族の取組（市民自らの健康づくり）〕

- ・定期的に健康診査を受診するとともに、精密検査が必要と言われたら必ず受けます。
- ・健康診査の結果を活用して、生活習慣を見直します。
- ・ヒートショックについて知り、住宅の断熱性能の向上をはじめとする住まいの環境改善や、ヒートショックを予防する安全な入浴※に心がけます。
- ・定期的に体重を測り、自分に合った適正体重を維持します。
- ・定期的に血圧を測り、記録をつけるなど血圧管理を行います。
- ・かかりつけ医やかかりつけ薬局をもち、自分の健康について相談します。

〔関係団体・関係機関の取組（市民を支える地域の健康づくり）〕

関係団体・機関の取組	主な活動（関係団体・機関）
健康診査の必要性と受診方法を説明し、受診を勧めます。	健康管理や特定健診の大切さの普及・啓発、受診勧奨（地域健康づくり推進懇話会、環境保健衛生協会、ヘルスボランティア協議会、食生活改善推進協議会、全国健康保険協会富山支部、高岡市医師会、高岡市薬剤師会、地域包括支援センター）
健康的な生活習慣について正しい知識の普及・啓発や健康づくりの推進に努めます。	・健康に関する講演会（高岡市医師会、全国健康保険協会富山支部） ・健康に関する教室等（地域健康づくり推進懇話会、ヘルスボランティア協議会、食生活改善推進協議会）

〔高岡市の取組（市民を支える環境）〕

高岡市の取組	主な事業（担当課）
地域住民へ健康教育を実施し、生活習慣病の発症予防や重症化予防のための生活習慣の改善、ヒートショックの予防について普及・啓発します。	健康教育（健康増進課）
健康診査を行い、生活習慣病予防が必要な人へ保健指導を行います。	・国民健康保険の特定健康診査、特定保健指導、生活習慣病予防健診（保険年金課、健康増進課） ・健康増進法に基づく健康診査、訪問指導、健康相談（健康増進課） ・特定保健指導受講キャンペーン（保険年金課） ・後期高齢者の健康診査（保険年金課）

	・高岡市生活習慣病（循環器系）重症化予防事業（高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業）（保険年金課・健康増進課）
受診率向上のため、健康診査の周知を行います。	各種講演会、イベント開催時などに、健康診査について周知（保険年金課）
健（検）診未受診者へ受診勧奨をし、健（検）診受診率向上に努めます。また、健（検）診機会がない人へ受診の機会を提供します。	未受診理由の把握、受診しやすい環境づくり、企業等への働きかけ（保険年金課、健康増進課）
「とやま呉西圏域健康ポータルサイト“からだナビ”」を活用し、健診結果（血液データ）から心臓血管病の進行度や腎臓機能を確認するよう勧めます。	とやま呉西圏域連携事業（健康増進課）
健康を維持するための住まいの環境の重要性について啓発し、健康・省エネ住宅の推進・制度周知に取り組みます。	・冊子等の配布やホームページによる啓発活動（建築政策課、環境政策課、健康増進課、） ・住宅エコ（断熱）リフォーム支援（建築政策課）

※ ヒートショックを予防する安全な入浴：入浴前に脱衣室や浴室を温かくする、浴槽に入る前に心臓に遠いところからかけ湯をする、浴槽内の湯は 39～41℃とし、湯につかる時間は 10 分前後を目安とする、入浴前後に水分補給をするなど。

コラム「自分の適正体重を知ろう！」

適正体重・・・生活習慣病になりにくいとされている体重

計算式 身長（m）×身長（m）×22（BMI）

例 身長 1.6m の場合

$1.6（m） \times 1.6（m） \times 22 = 56.3 \text{ kg}$ 適正体重 56.3 kg

やせすぎにも注意！

若い女性のやせ（BMI 18.5 未満）が増加しています。

過度のダイエットや食事の偏りが原因で、貧血や骨粗鬆症を生じます。

3 糖尿病

近年、糖尿病患者数は、社会環境と生活習慣の変化に伴って急速に増加しています。糖尿病は、早期では自覚症状が少ないため、放置すると合併症（網膜症、腎症、神経障害等）を引き起こすのが特徴です。その中でも、糖尿病性腎症については、重症化し腎不全に陥ることで人工透析を要する状態となり、QOL を著しく低下させるのみならず、経済的にも社会的にも大きな負担となります。

糖尿病対策では、食生活や運動等の生活習慣の改善、適正体重の維持、定期的に健康診査等を受診することで、予防・早期発見・重症化予防に努めることが重要です。

【健康たかおか😊10 か条】

第10条 40歳になったら毎年受けよう！特定健康診査

知ってるよ！わたしの血糖値・HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）

取組の方向

- ・ 糖尿病の発症予防や重症化予防のための生活習慣の改善、糖尿病に関する正しい知識の普及・啓発に努めます。
- ・ 医療機関と連携し、糖尿病や糖尿病性腎症重症化予防のための指導や受診勧奨に努めます。
- ・ 職域や関係団体と連携し、糖尿病の発症予防や重症化予防のための生活習慣の改善と、年1回の健康診査について情報提供します。

目標

項目	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和10年度)
HbA1c が 5.6%以上の人の割合の減少（40～74 歳） （国民健康保険と全国健康保険協会富山支部の特定健診結果）	69.1% (令和3年度)	60.5%
血糖コントロール指標におけるコントロール不良者（HbA1c が 8.0%以上）の割合の減少（40～74 歳） （国民健康保険と全国健康保険協会富山支部の特定健診結果）	1.7% (令和3年度)	1.0%

具体的な取組

〔個人や家族の取組（市民自らの健康づくり）〕

- ・ 糖尿病に関する正しい知識を持ち、発症原因となるエネルギーの摂りすぎや運動不足などの生活習慣を改善し、適正体重を保ちます。
- ・ 定期的に健診を受け、結果を確認し、自分の血糖値（HbA1c 値）を知ること、生活習慣の見直しや健康づくりに役立てます。
- ・ 健診結果で糖尿病の疑いがある場合は受診し、糖尿病の診断を受けた場合は治療を受け、自己判断で治療を中断せずに継続します。
- ・ 食物繊維が豊富に含まれる野菜等を最初に食べることを心がけます。

〔関係団体・関係機関の取組（市民を支える地域の健康づくり）〕

関係団体・機関の取組	主な活動（関係団体・機関）
高血糖・高度蛋白尿や腎機能の低下などハイリスク者に対して保健指導を実施し、精密検査や専門医への受診勧奨を行います。	健康に関する講演会、糖尿病重症化予防のための保健指導、糖尿病連携手帳の活用・普及（高岡市医師会）
歯周病と糖尿病の関連性や口腔環境改善についての普及啓発や受診勧奨を行います。	健康に関する講演会（高岡市歯科医師会）
地域住民や被保険者・被扶養者に対して、糖尿病の発症予防や重症化予防のための生活習慣の改善と、年1回の健康診査について情報提供します。	・ 健康管理や特定健康診査の大切さの普及啓発、受診勧奨（地域健康づくり推進懇話会、環境保健衛生協会、ヘルスボランティア協議会、食生活改善推進協議会、高岡市医師会、高岡市薬剤師会、全国健康保険協会富山支部、地域包括支援センター） ・ 公民館行事や住民運動会で声かけやパネル展示による糖尿病予防の普及啓発（地域健康づくり推進懇話会、環境保健衛生協会、ヘルスボランティア協議会、食生活改善推進協議会） ・ 糖尿病重症化予防のための保健指導の勧めや受診勧奨（全国健康保険協会富山支部）
医療保険者や事業者が職場での糖尿病対策に取り組むことができるよう、普及啓発を支援します。	健康に関する講演会、バランスアップ健康プロジェクト事業（高岡厚生センター）

〔高岡市の取組（市民を支える環境）〕

高岡市の取組	主な事業（担当課）
糖尿病食品交換表を用いた食事療法を普及します。	糖尿病に関する健康教育（健康増進課）
医療機関と連携し、糖尿病性腎症重症化予防のための食事療法の指導や受診勧奨を行います。また、個人の健康、医療に関する情報のデータ分析により、個人に応じた効果的な保健指導を実施します。	糖尿病性腎症重症化予防訪問指導、医療機関への受診勧奨、高岡市糖尿病性腎症重症化予防事業（高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業）（保険年金課、健康増進課）
地域住民へ健康教育等を実施し、糖尿病の発症予防や重症化予防のための生活習慣の改善と、年1回の健康診査受診を勧めます。	・ 健康教育（健康増進課） ・ 特定健康診査の受診勧奨、特定保健指導の受講勧奨、訪問指導（保険年金課、健康増進課）
健康診査を行い、生活習慣病予防が必要な人へ保健指導を行います。	・ 国民健康保険の特定健康診査、特定保健指導、生活習慣病予防健康診査（保険年金課、健康増進課） ・ 後期高齢者の健康診査（保険年金課） ・ 健康増進法に基づく健康診査、訪問指導、健康相談（健康増進課） ・ 特定保健指導受講キャンペーン（保険年金課）
事業所従業員が職場での糖尿病対策（野菜を先に食べる、健診を受けて結果を確認し生活習慣の改善に役立てるなど）に取り組むことができるよう、普及啓発を行います。	事業所での健康教育（健康増進課）
「とやま呉西圏域健康ポータルサイト“からだナビ”」を活用し、健診結果（血液データ）から心臓血管病の進行度や腎臓機能を確認するよう勧めます。	とやま呉西圏域連携事業（健康増進課）
デジタルツールやインターネットを通じて「食」や「健康」に関する情報を発信します。	cookpad（クックパッド）高岡市公式キッチン「高岡にここキッチン」、「子育てアプリ（ねねットたかおか）」によるレシピの情報発信（健康増進課、子ども・子育て課、学校教育課）

※ 食物繊維が豊富に含まれる野菜等を最初に食べることで：食物繊維が豊富に含まれる野菜等をよく噛むことで脳の満腹中枢が刺激され、過剰に食べることを防止したり、血糖値を上昇しにくくしたりするといわれています。

4 慢性閉塞性肺疾患（COPD）

肺の生活習慣病とも言われる慢性閉塞性肺疾患(以下 COPD という。)は、従来、慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称です。最大の原因は喫煙であり、喫煙者の 15～20% が COPD を発症すると言われています。日本では約 530 万人を超える患者数があるといわれていますが、あまり知られていない病気であることから、大多数が未診断、未治療の状態であると考えられています。肺の機能は一度壊れてしまうと、もう元には戻りません。この病気について理解し、禁煙や早期に受診することにより、肺の機能の低下を遅らせることが重要です。

【健康たかおか😊10 か条】

第 8 条 禁煙にチャレンジ&タバコの煙を避けよう

取組の方向

- ・ COPD、タバコが健康に及ぼす悪影響に関する正しい知識の普及に努めます。
- ・ 関係機関や各種団体と連携し、望まない受動喫煙のない社会の実現に努めます。

目標

項目	現状値 (令和 4 年度)	目標値 (令和 10 年度)
COPD の死亡率の減少(人口 10 万対)	17.7 (令和 3 年)	10.0 (令和 9 年)
喫煙率の低下(再掲)	男性 23.3% 女性 4.8%	男性 20% 女性 3%

具体的な取組

〔個人や家族の取組（市民自らの健康づくり）〕

- ・ 喫煙や禁煙が健康に及ぼす影響について理解します。
- ・ 積極的に禁煙に取り組みます。
- ・ 家庭や職場、喫煙・分煙スペース以外における受動喫煙防止に取り組みます。
- ・ 禁煙、分煙スペースでのマナーを守ります。

〔関係団体・関係機関の取組（市民を支える地域の健康づくり）〕

関係団体・機関の取組	主な活動（関係団体・機関）
施設や職場等での禁煙・分煙を推進し、受動喫煙の防止に努めます。	・ 分煙、禁煙を推進（各公共施設、職場、飲食店） ・ 「とやま健康企業宣言」（全国健康保険協会富山支部）
タバコが健康に及ぼす悪影響について知識の普及に努めます。	・ 公民館まつり等でのたばこの害についての啓発普及（地域健康づくり推進懇話会） ・ 禁煙外来（高岡市医師会）
COPD を早期に発見し、禁煙を啓発します。	地域のイベント等で肺年齢測定器により肺年齢チェックを実施し、喫煙者に禁煙を啓発（高岡市薬剤師会）

〔高岡市の取組（市民を支える環境）〕

高岡市の取組	主な事業（担当課）
COPD、タバコが健康に及ぼす悪影響に関する正しい知識の普及に努めます。	健康教育、世界禁煙デーの普及啓発、母子健康手帳の交付、乳幼児健康診査、パパとママの育児講座、訪問指導（健康増進課）
公共的な空間における受動喫煙の防止に努めます。	・ 健康教育（健康増進課） ・ 公共的な空間における受動喫煙の防止（高岡厚生センター、健康増進課）
禁煙方法などの情報を提供し、禁煙を希望する人を支援します。	世界禁煙デーに合わせた啓発、健康相談、こんにちは赤ちゃん訪問事業で保護者へリーフレット配付（健康増進課）

《参考》COPD 問診票

以下の問診票のポイントの合計が、17 ポイント以上の場合「COPD の可能性あり」、16 ポイント以下の場合「COPD の可能性は低い」といわれています。

■COPD チェック

	質 問	選 択 肢	ポイ ン ト
1	あなたの年齢はいくつですか？	40～49 歳	0
		50～59 歳	4
		60～69 歳	8
		70 歳以上	10
2	1 日に何本くらいタバコを吸いますか？ （もし今は禁煙しているならば、以前は何本くらい吸っていましたか）いままで、合計で何年くらいタバコを吸って いましたか？（1 日の本数×年数）	0～299	0
		300～499	2
		500～999	3
		1,000 以上	7

3	あなたの体重は何キログラムですか？ あなたの身長は何センチメートルですか？ (BMI = 体重(kg)/身長(m) ²)	BMI < 25.4	5
		BMI 25.4~29.7	1
		BMI > 29.7	0
4	天候により、咳がひどくなることがありますか？	はい、天候によりひどくなることがあります	3
		いいえ、天候は関係ありません	0
		咳は出ません	0
5	風邪をひいていないのに痰がからむことがありますか？	はい	3
		いいえ	0
6	朝起きてすぐに痰がからむことがよくありますか？	はい	0
		いいえ	3
7	喘息（ゼイゼイ、ヒューヒュー）がよくありますか？	いいえ、ありません	0
		時々、もしくはよくあります	4
8	今現在（もしくは今まで）アレルギーの症状はありますか？	はい	0
		いいえ	3

資料：I P A G (International Primary Airways Group) 診断・治療ハンドブック日本語版 慢性気道疾患プライマリケア医療ガイド

※17点以上はCOPDの疑いがあります。

コラム「受動喫煙について」

受動喫煙とは、たばこから出た煙やたばこを吸っている人が吐き出した煙を周囲の人が吸うことをいいます。たばこから出た煙は「副流煙」といい、たばこを吸っている人が吸いこむ煙より有害物質が多く含まれています。

望まない受動喫煙を防止するため、健康増進法が改正され、多くの施設において屋内は原則禁煙となりました。そのため、受動喫煙を防ぐための取組はマナーからルールとなりました。



屋内は原則禁煙



20歳未満の方は
喫煙エリアへの
立ち入り禁止

標識掲示が
義務付け

喫煙室には
標識掲示が
義務付けに

喫煙室の
設置が必要

屋内での喫煙
には喫煙室の
設置が必要